

## 会社における パソコン・ケータイの利用実態

約46.2%は  
自由にPCネットにアクセスできない  
約42.9%は  
自由にケータイを使えない

PCを利用している社会人のうち、職場で個人に支給されているPCを利用しているのはどのくらいいるだろうか。「会社から支給された自分専用のPC」の利用率は76.2%、「いろいろな人で共有するPC」での利用率は28.8%と、約3割は自分で好き勝手にPCを使えない。さらにPC利用者において、「閲覧サイトの制限なくインターネットに自由にアクセスできる」のは52.8%となっており、残りの38.3%は「インターネットアクセスに制限がある」、8.9%は「インターネットのメールだけが利用できる」「インターネットは利用できない」などの状況にある。

さらに意識レベルではあるが、閲覧サイト制限のあるPC利用者で「制限されるサイトが増えている」と感じているのは75.7%となっており、会社でのサイトへのアクセス制限が年々厳しくなっている状況が見うけられる。また、PC利用者で「プライベートメールの送受

信ができる」のは56.9%となっており、残りの43.1%は自由に使えず何かしらの制限などがある。つまり会社でPCを利用する人は、自由にサイトアクセスでき、自由にメールをやり取りできると思われがちだが、実態はかなり厳しい状況が見てとれる。同様にFAXの利用状況を見てみると、「プライベートのFAXの送信も受信もできる」人は34.3%となっており、65.7%の人は自由に使えず何かしらの制限がある。

職場での  
ネット利用自由度は  
制限されている

それでは、ケータイの利用実態を見てみたい。「職場に携帯電話を持ち込んで業務中に自由に使える」のは57.1%となっている反面、「職場に持ち込むことは禁止されていないが、業務中は自由に使うことはできない」が32.1%で、「職場に持ち込むことが禁止されていてロッカーなどに入れておかなければならない」が10.8%にもなる。つまり4割以上の人が就業時間中はほとんどケータイを使えない状況にある。ケータイは常に手元にあり、いつでも自由に使うことができと思われがちだが、実際はほとんどが使えない状況にあるわけである。

参考までに、職場におけるテレビ視聴の自由度を見てみる。すると、「いつでも自由にテ

レビを見ることができる」7.0%、「ある程度自由にテレビを見ることができる」8.1%、「昼休みなど休み時間だけテレビを見ることができる」33.6%、「テレビを見ることができない」19.8%、「職場にテレビがない」31.6%となっており、自由にテレビを見ることができるのも非常に少ないことがわかる。

当たり前のように利用することができると思われている、PC・ケータイ・FAX・テレビなども、実際はかなりの制限を受けており、自由に利用できない実態が浮き彫りになった。

## 学校における パソコン・ケータイの利用実態

学校にケータイを持っていき、  
自由に使えるのは、  
高校生で58.7%、  
中学生で9.1%

それでは学生の利用状況はどのようになっているだろうか。学校でPCを利用しているのは、中学生で72.2%、高校生で52.9%、大学生以上で84.9%となっている。大学生は理数系も含めてPCに触る機会は多くあると考えられるが、中学生の方が高校生よりも利用率が高いことは注目すべき点である。パソコン教育が浸透していることがうかがえる。

電通※  
メディア  
インサイト  
メモ

03

# “意外と落とし穴?”

なメディア／情報通信環境

テクノロジーの進化により、今まで以上にオーディエンスが接するメディア／情報通信環境は増え、複合的に絡み合うようになっている。

そしてさまざまなシーンでその接触する状況は違っている。

しかしながら当たり前と思われている環境が、実は勘違いされているケースがある。

そこでメディアイノベーション研究部では、10才～69才の男女に対してメディア／情報通信環境調査を実施したので紹介したい。

文●庄野 徹

Shono Toru

チーフ・メディア・リサーチャー

※電通の組織変更で「電通総研」から「電通」に変更しました。

サンプル数が少ないため参考値となってしまうが、小学生においては78.3%と中学生よりもさらに高くなる。インターネットの利用環境は、学生平均(小学生～大学生)で36.6%が自由にインターネットにアクセス可能であるが、63.4%は「閲覧サイトが制限されて自由に閲覧することができない」「インターネットが利用できない」などの状況にある。

ケータイの学校への持ち込み自由度を見ても、大学生は95.7%とほぼ全員が「学校に携帯電話を持って行って自由に使うことができる」が、高校生では58.7%、中学生で

は9.1%と年齢が下がるほど自由度は下がり、「学校への持ち込みが禁止」「学校へ持ち込んでも先生に預ける」「学校内でも持ち込む場所が制限されている」など、かなり制限されていることがわかる。ケータイ世代には非常に辛いところではある。実際は、禁止されていても持って行く高校生・中学生は多いと思うが、手元にあるからといって常に触ることができる状態にはないことがわかる。

以上のように、当たり前とされているメディア／情報通信環境が、意外と見落とされ

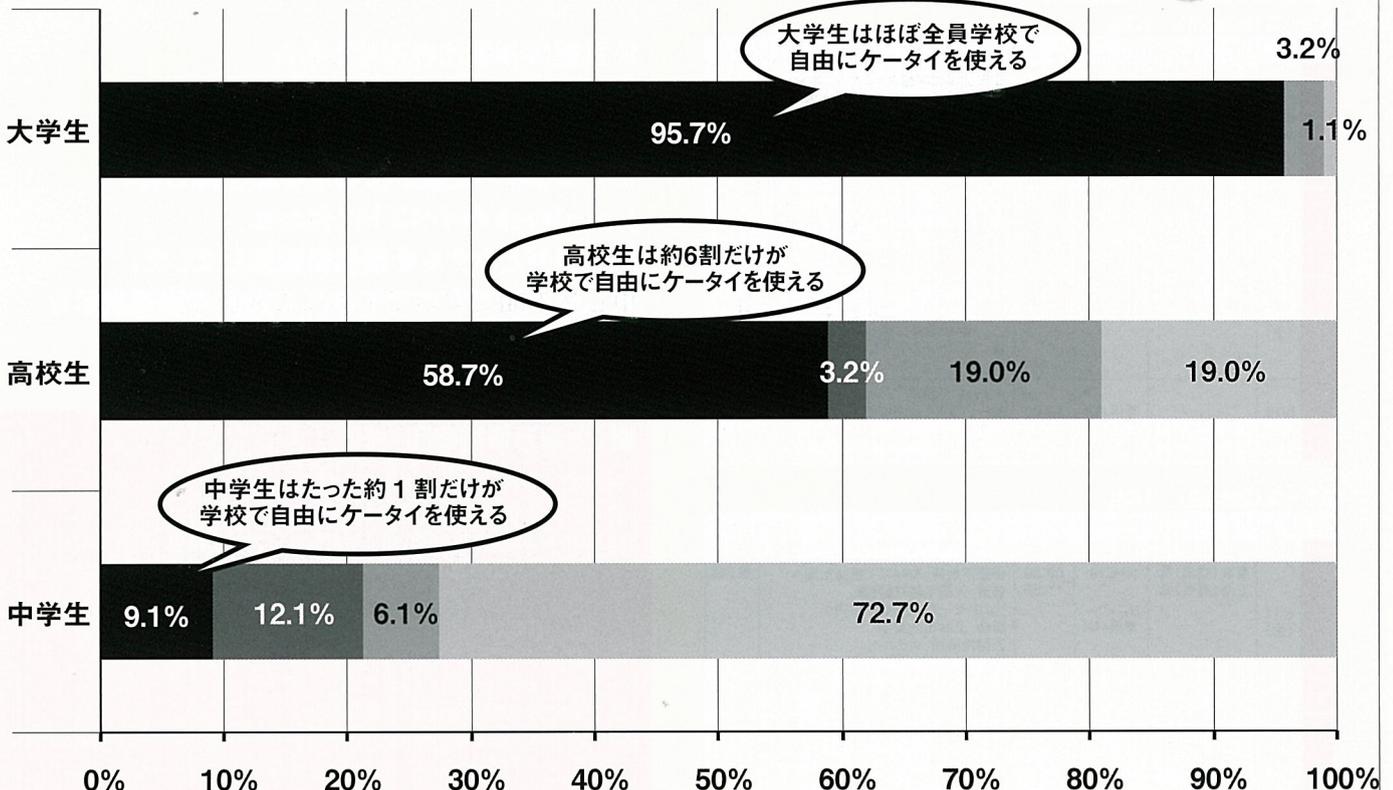
ていることが多くある。セキュリティに対するリテラシーが高い職場では、逆に自由なメディア／情報通信環境への接触が望めない。また、学生なども当たり前のようにケータイを利用できるかと思われがちだが、意外にも学校での利用シーンは制限されていることが多い。

特に“エンタテインメント消費”という視点で考察するには、会社や学校などはメディア／情報通信環境が制限されているケースが多く、明らかに自宅内や自由な屋外とは“エンタテインメント消費”に対する環境が異なっていることには注意すべき点ではないだろうか。

ケータイ世代に  
とっては  
辛い事実

[図] ケータイ世代には辛い事実

- 学校に携帯電話やPHSを持って行って自由に使える
- 学校に携帯電話やPHSを持って行ってよいが、学校が終わるまで先生に預けなければならない
- 学校に携帯電話やPHSを持って行ってよいが、持ち込む事が禁止されている場所がある
- 学校に携帯電話やPHSを持って行くことが禁止されている



<調査概要>  
 エリア：1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）  
 調査方法：インターネット調査  
 調査時期：2010年3月初旬  
 サンプル数：1200ss  
 対象者：10才～69才の男女個人（性×年代で100ss均等割り付け）